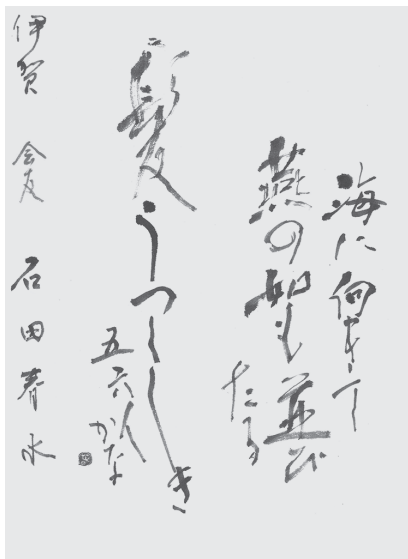


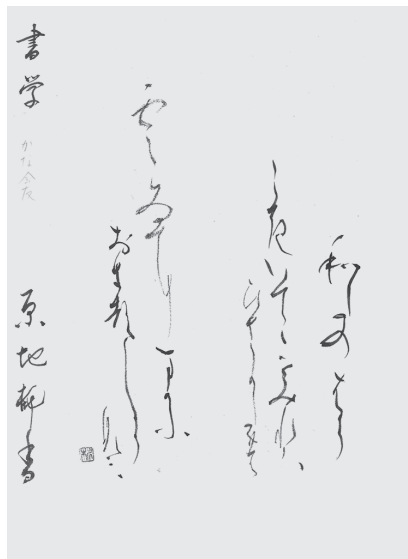
今月の最優秀作品

【新和様半紙】



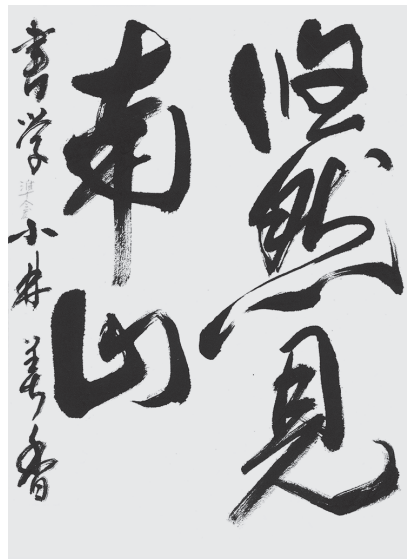
伊賀 石田 春代 美しい墨色、練達な運筆、全体の変化とバランスが温雅な趣を見せている。落款印が見事であり、全体を引き締めた。
(審査評 二宮 桂秀)

【かな半紙】



書学 原地 桃香 やゝ小ぶりながら、多様な線質と美しい字形、吟味された構成で抜群の安定感と落ち着きを感じる作品。
(審査評 野呂 詠雪)

【漢字半紙】



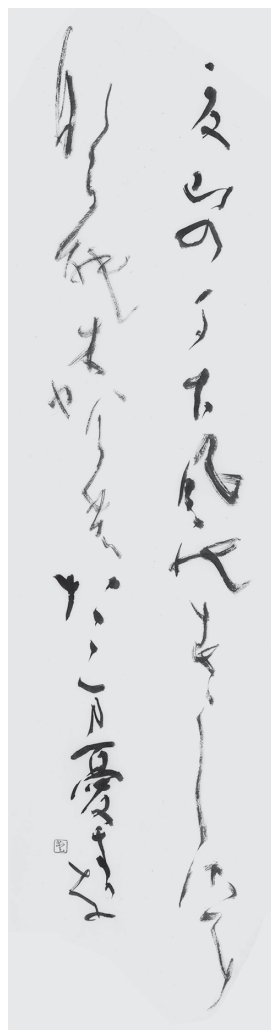
書学 小林 美代子 雲煙飛動、生き生きかつ力強く筆が動き潤渇も自然で見応えあり。特に「然」大胆で目を引く。落款やや小さく。
(審査評 池田 知之)

【新和様条幅】



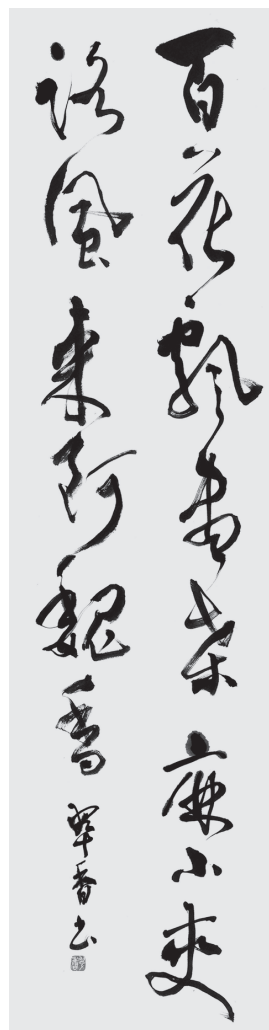
松林 岩浪 春鳥 抑揚のきいた線で力強く、筆勢あり。流れもよく、中央部の余白が明るさと品格を醸し出している。
(審査評 東仲 遙邨)

【かな条幅】



祥瑞 河野 愛子 「夕下風」の表現に苦戦する作品が多い中、変化をつけた簡素な漢字でうまくポイントを作った。放ち書きの横に連綿を配し、文字のバランスも美しい。
(審査評 川島 史子)

【漢字条幅】



佐賀 木村 翠香 濃墨を活かした潤渇と線条の太細の変化が巧みである。小振りながら脚落款で取めて余白を生かした落ち着いた秀作。
(審査評 永井 香樹)



8月提出の競書の写真版全作品は、8月20日(木)より本会ホームページに掲載いたします。



青二
滝本 淳
十典
方御

和敬
星島 智子
十典
方御

我妻 初
我妻 麻子
十典
方御

翠湖
澤田 潤舟
十典
方御

出雲
澤田 宮下 春奈
十典
方御

文京
神田 沙耶子
十典
方御

京都
横井 理
十典
方御

書学
林 実千子
十典
方御

守谷
石井 久子
十典
方御

書学
横田 スミエ
十典
方御

書学
醍醐 百恵
十典
方御

書学
石島 尚実
十典
方御

田代
準初 関 順子
十典
方御

書学
山口 智子
十典
方御

書学
竹中 奈和
十典
方御

書学
飯野 優子
十典
方御

書学
林 千晶
十典
方御

唐扇
山田 菜穂子
十典
方御

大井
遠山 杏実
十典
方御

書学
田本 史沙子
十典
方御

もも
佐々木 理恵
傳空
聲谷

須形
安部 美奈美
十典
方御

いづみ
余 珮 漢
十典
方御

S.T.
桑場 紀子
十典
方御

書学
三喜田 刀
十典
方御

書凡
脇田 清翠
傳空
聲谷

京都
八木 伸一
十典
方御

T.T.
辻野 智美 一級
十典
方御

書学
唐木 真珠子
十典
方御

友和
三 淡元 妙子
十典
方御

空谷
傳聲

青玄
聲野智子

空谷
傳聲

ラサ
ブンド
バトリック

空谷
傳聲

春日
斎藤
明美

空谷
傳聲

千風
尾形千春
日級

空谷
傳聲

書学
安武理子

空谷
傳聲

書学
吉田みちよ

百花飄盡素麻小夾
路風來阿魏香

愛山
高田 佳桜

百花飄盡素麻小夾
路風來阿魏香

九書
井上 恵子

百花飄盡素麻小夾
路風來阿魏香

藤原 佐伯 政子

百花飄盡素麻小夾
路風來阿魏香

青葉
中村 恵子

百花飄盡素麻小夾
路風來阿魏香

新潟
坂井 光華

百花飄盡素麻小夾
路風來阿魏香

大田
涌井 敬子

仰觀宇宙之大俯
察品類之盛

書字
加藤 詩遙

仰觀宇宙之大俯
察品類之盛

龍門
田中 杏花

仰觀宇宙之大俯
察品類之盛

書字
栗田かおり

仰觀宇宙之大俯
察品類之盛

岩書
加藤 絹代

仰觀宇宙之大俯
察品類之盛

佳心
寒川理恵子

風泉満清聴

かおり書

風泉満清聴

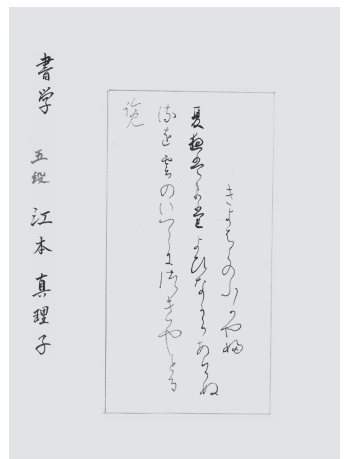
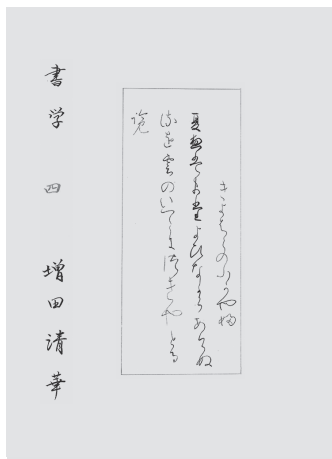
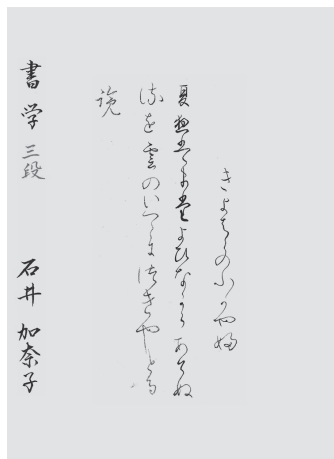
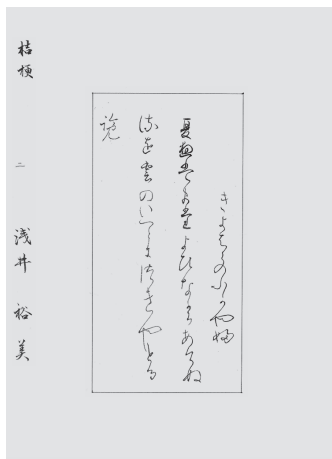
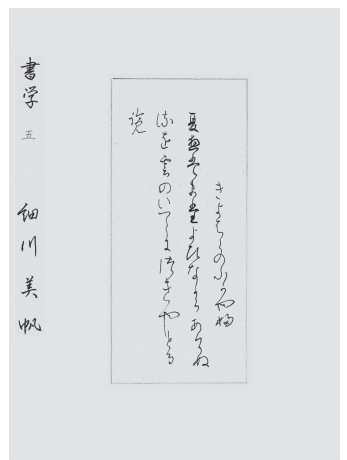
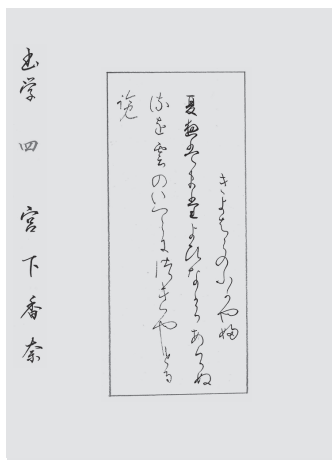
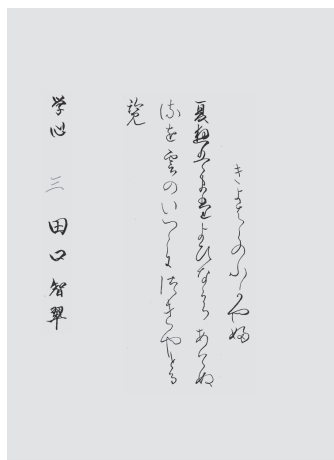
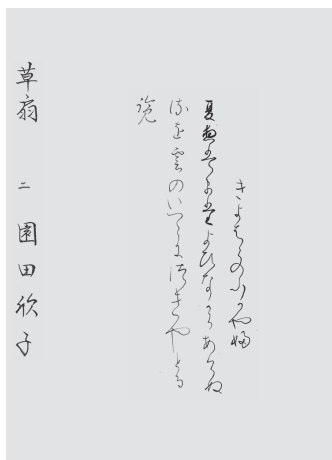
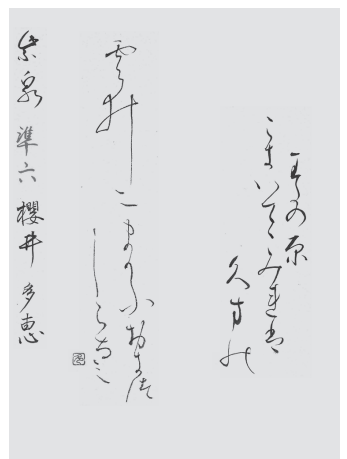
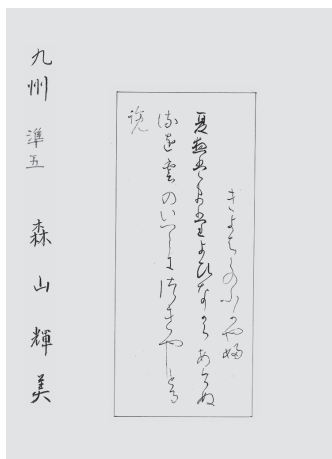
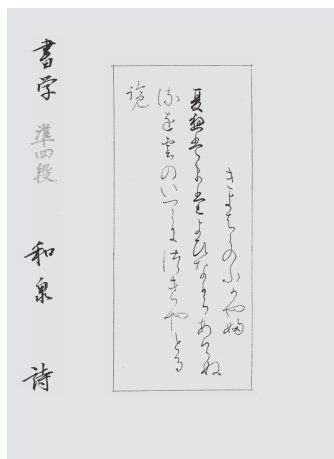
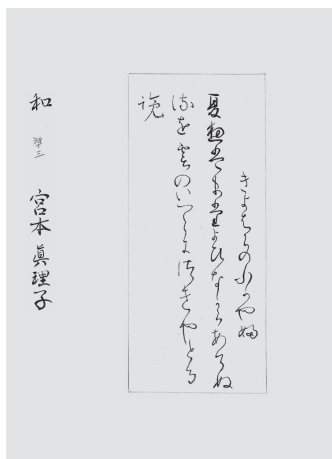
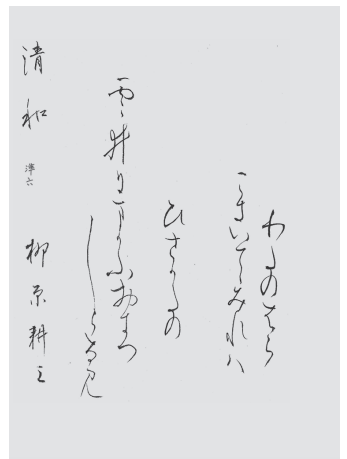
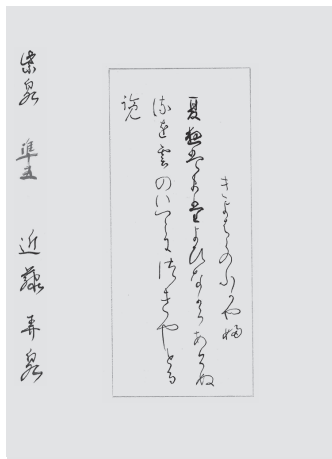
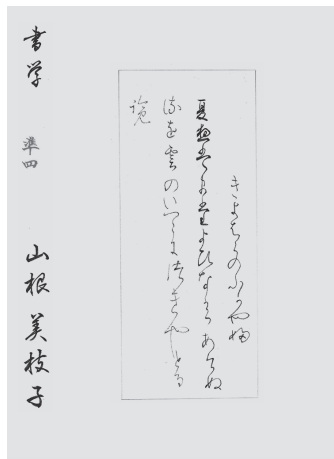
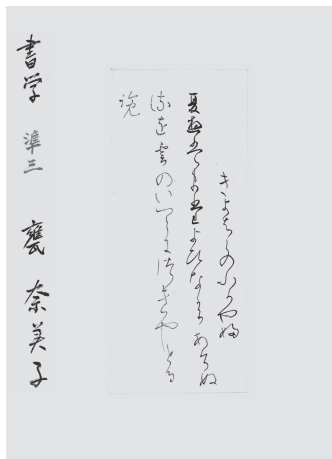
絹代書

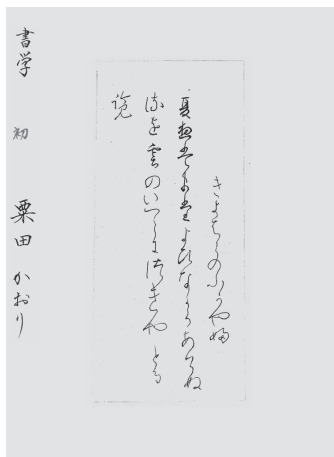
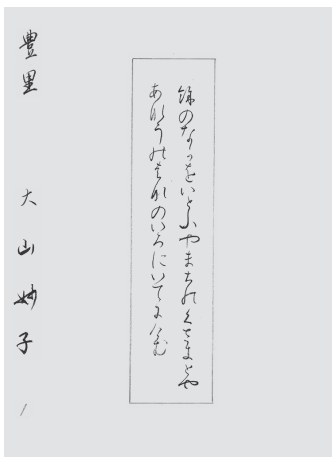
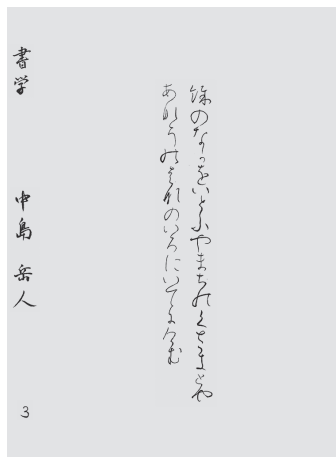
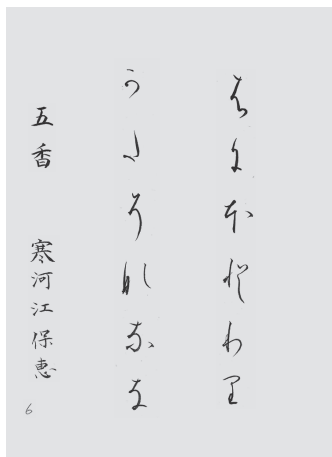
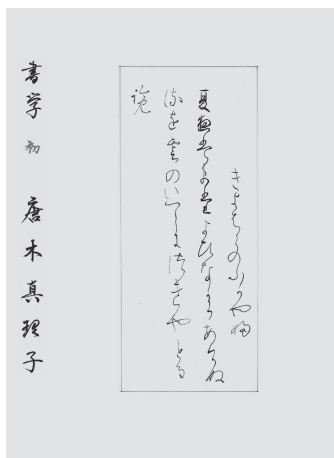
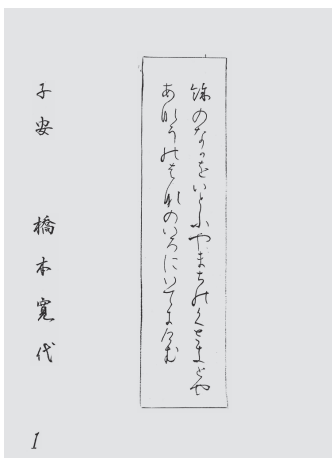
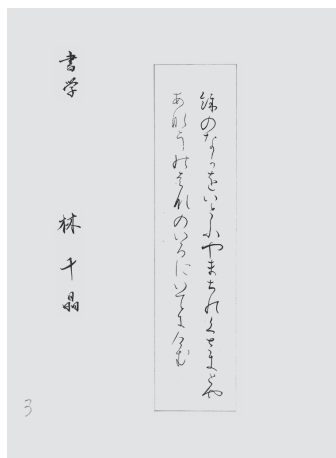
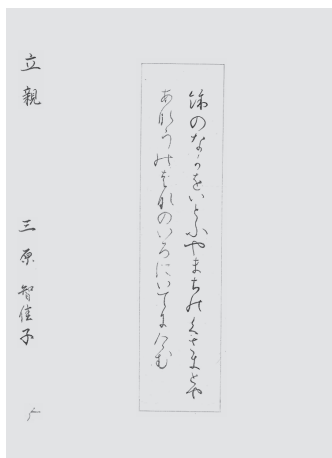
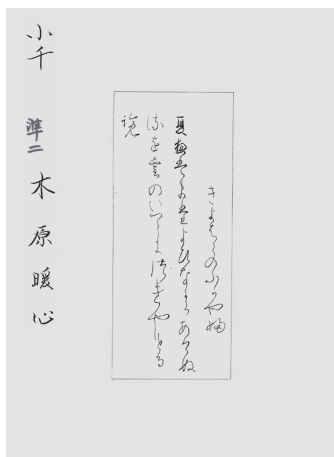
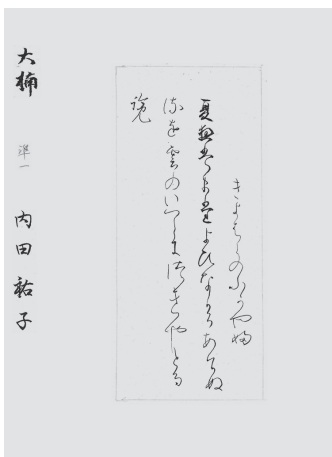
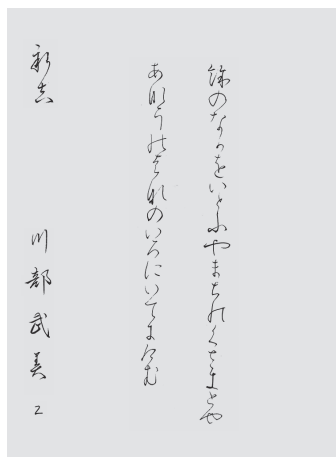
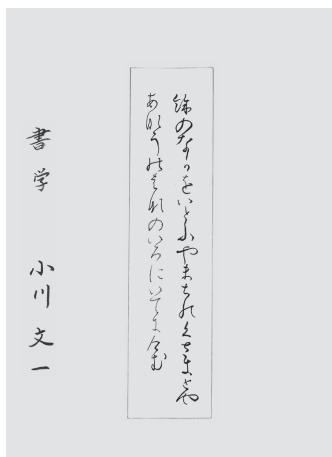
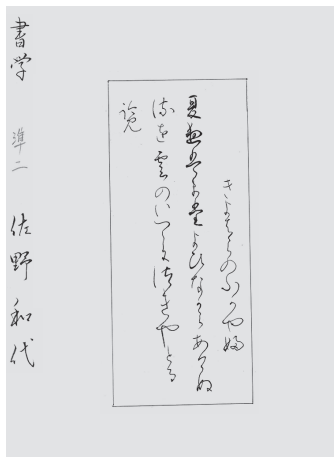
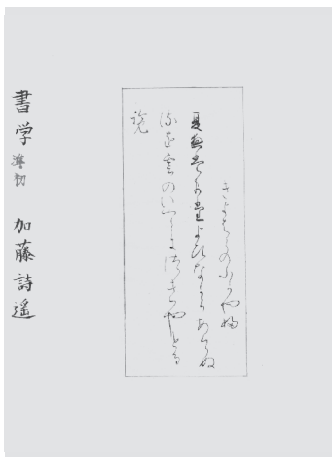
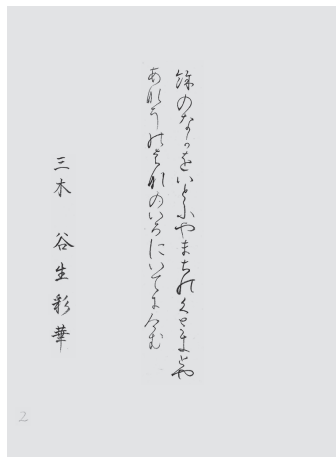
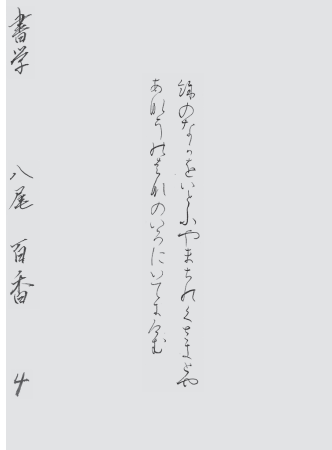
風泉満清聴

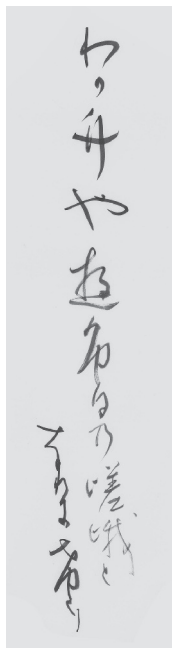
理恵子書

風泉満清聴

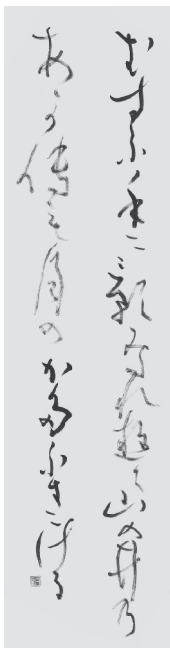
京子書



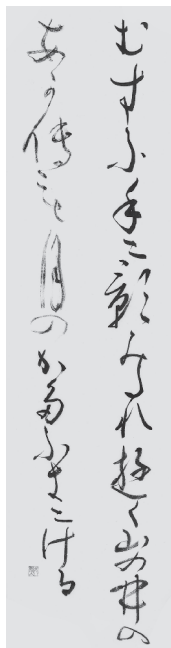




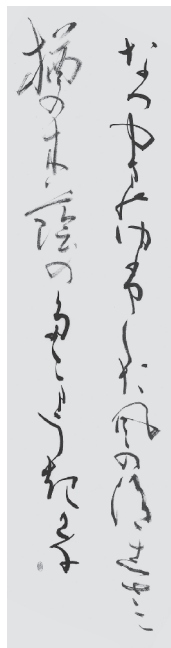
書字 甕 奈美子



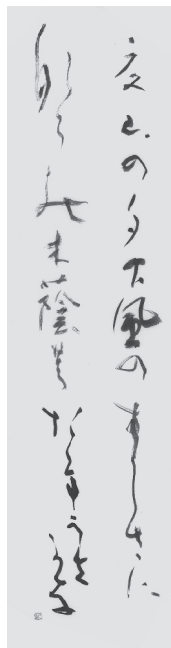
書字 清水 有紀



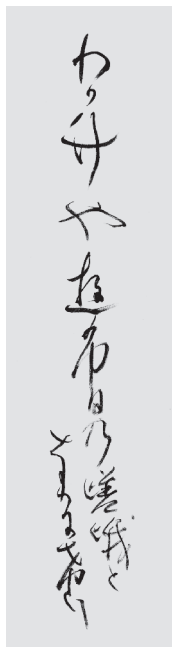
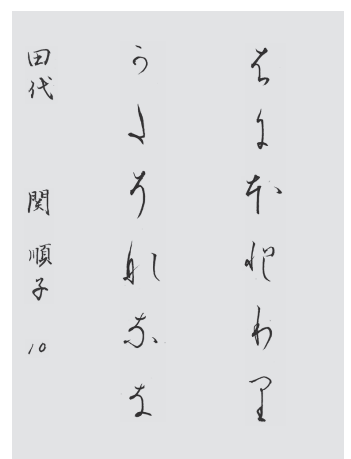
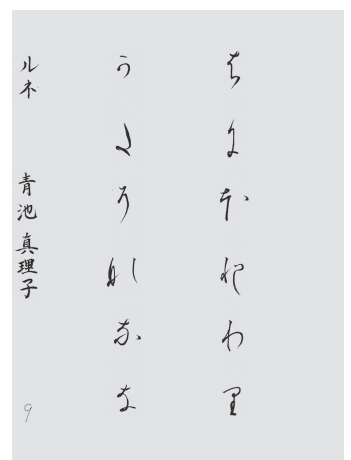
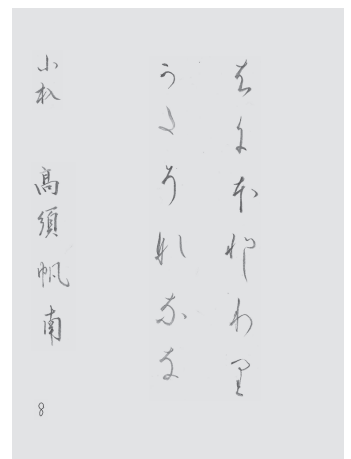
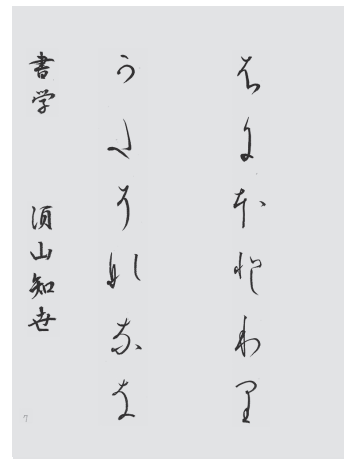
小絹 小畑 知子



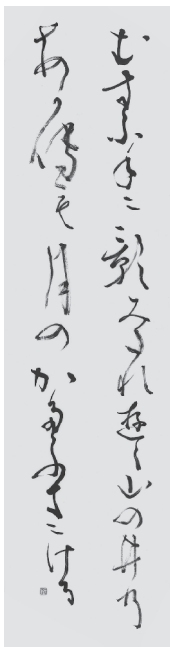
水室 松井みゆき



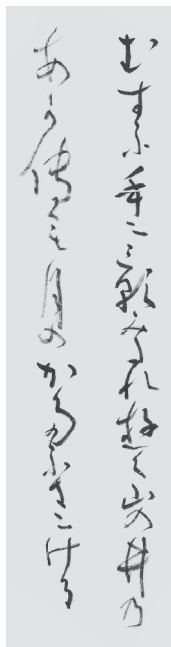
いち 榎原由紀子



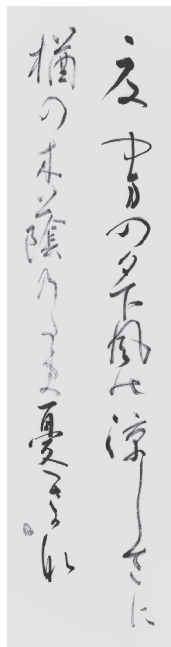
天元 杉森 裕美



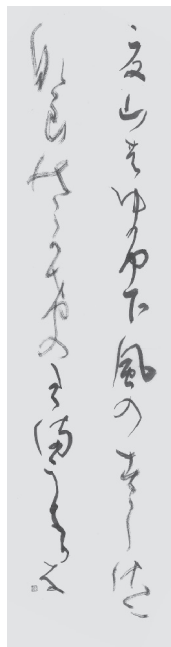
書友 萩原寿美子



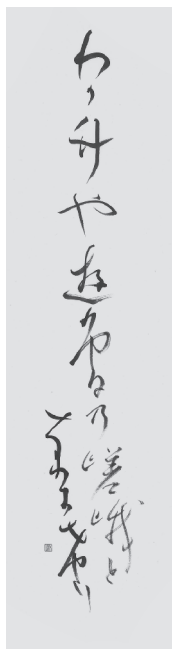
玉弥 玉置やよい



一人 宮崎 恵華



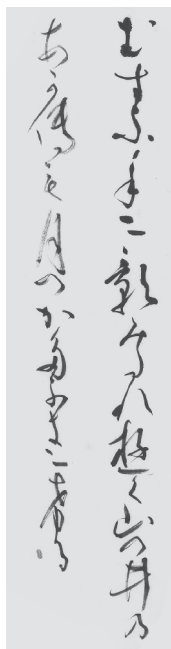
小諸 鈴木真理子



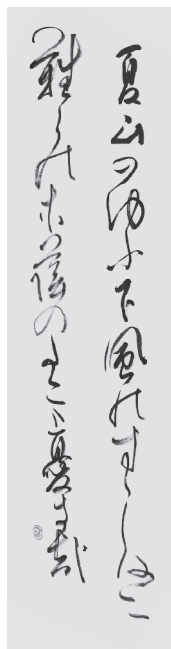
書字 仲野 美香



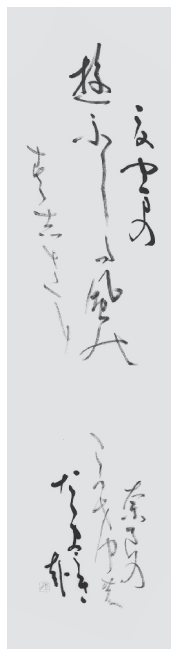
野中 稲葉 青風



書字 大杉 マサ



書字 坂井 知子



書字 奥島 彩舟

海に向き
燕の如も並びたる
髪うつくしき
五六人かな
書学 準六 小形久美子

海に向き
燕の如も並び
髪うつくしき
五六人かな
書学 準七段 杉山 環

海に向き
燕の如も並び
髪うつくしき
五六人かな
純書 八段 河内真智子

海に向き
燕の如も並び
髪うつくしき
五六人かな
純書 準合段 新 幾子

海に向き
燕の如も並びたる
髪うつくしき
五六人かな
乙未 金友 依田 蘭香

こそぐりて
砂の並べゆく
山川の水のつめな
港北 立役 長島 順子

海に向き
燕の如も並び
髪うつくしき
五六人かな
藤 六段 藤 永恵子

海に向き
燕の如も並び
髪うつくしき
五六人かな
中原 八段 山崎 隆実

海に向き
燕の如も並び
髪うつくしき
五六人かな
神戶 準合段 中山 静雲

海に向き
燕の如も並び
髪うつくしき
五六人かな
信 六段 金友 東 山 久子

こそぐりて
砂の並べゆく
山川の水のつめな
書学 海老名 忠実子

海に向き
燕の如も並び
髪うつくしき
五六人かな
水差 六段 都 久美

海に向き
燕の如も並び
髪うつくしき
五六人かな
湖 準八段 松本 永寿

海に向き
燕の如も並び
髪うつくしき
五六人かな
伊賀 準合段 廣崎 依知子

海に向き
燕の如も並び
髪うつくしき
五六人かな
金友 新 準合段 池田 台枝

こそぐりて
砂の並べゆく
山川の水のつめな
石島 準三段 戸倉 翠玉

海に向き
燕の如も並び
髪うつくしき
五六人かな
青空 六段 久米 寿美

海に向き
燕の如も並び
髪うつくしき
五六人かな
奈良 七段 松本 かなる

海に向き
燕の如も並び
髪うつくしき
五六人かな
浦 準合段 高橋 久美子

海に向き
燕の如も並び
髪うつくしき
五六人かな
金友 初段 前部 彩雪

こそぐりて
砂の並べゆく
山川の水のつめな
FC 準五 中尾 友香

海に向き
燕の如も並び
髪うつくしき
五六人かな
書学 準六 萩田 有香子

海に向き
燕の如も並び
髪うつくしき
五六人かな
書学 八段 笠原 玉蘭

海に向き
燕の如も並び
髪うつくしき
五六人かな
書学 八段 松原 依美

海に向き
燕の如も並び
髪うつくしき
五六人かな
書学 準合段 木下 宏枝

こそぐりて
砂の逃げゆく
是うらにむ
山川の水のつめたき

松伊 四 熊谷美子

こそぐりて
砂の逃げゆく
是うらにむ
山川の水のつめたき

湘花 三 高橋佳子

こそぐりて
砂の逃げゆく
是うらにむ
山川の水のつめたき

新潟 二 坂井光華

こそぐりて
砂の逃げゆく
是うらにむ
山川の水のつめたき

翠湖 二 白井美子

松風の
絶へ間を
蟬の——ぐれ
かな

津 園田恵

こそぐりて
砂の逃げゆく
是うらにむ
山川の水のつめたき

書学 四 赤地豊

こそぐりて
砂の逃げゆく
是うらにむ
山川の水のつめたき

本川 準三 北澤奈津子

こそぐりて
砂の逃げゆく
是うらにむ
山川の水のつめたき

南車 二 夜田将子

松風の
絶へ間を
蟬の——ぐれ
かな

書学 伊藤照美

松風の
絶へ間を
蟬の——ぐれ
かな

書学 安部 薫

こそぐりて
砂の逃げゆく
是うらにむ
山川の水のつめたき

書学 四 伊澤佳那

こそぐりて
砂の逃げゆく
是うらにむ
山川の水のつめたき

小平 三 若林久代

こそぐりて
砂の逃げゆく
是うらにむ
山川の水のつめたき

森初 初段 金井休子

松風の
絶へ間を
蟬の——ぐれ
かな

紅夜 山口怜子

松風の
絶へ間を
蟬の——ぐれ
かな

松登 向井千恵美

こそぐりて
砂の逃げゆく
是うらにむ
山川の水のつめたき

厚木 三 瀧澤裕子

こそぐりて
砂の逃げゆく
是うらにむ
山川の水のつめたき

加茂 二 石黒梅子

こそぐりて
砂の逃げゆく
是うらにむ
山川の水のつめたき

書学 初 加藤持逸

松風の
絶へ間を
蟬の——ぐれ
かな

春日 廣引まゆみ

松風の
絶へ間を
蟬の——ぐれ
かな

榎本 森元まゆみ

こそぐりて
砂の逃げゆく
是うらにむ
山川の水のつめたき

松登 二本恵泉

こそぐりて
砂の逃げゆく
是うらにむ
山川の水のつめたき

あい 二 櫻木友渚

こそぐりて
砂の逃げゆく
是うらにむ
山川の水のつめたき

書学 初 井藤雪子

松風の
絶へ間を
蟬の——ぐれ
かな

書学 安藤雅子

松風の
絶へ間を
蟬の——ぐれ
かな

永岳 只野 聡子

松風の
絶へ間を
蝉のしぐれ
かな
書凡 上田忠泉 6

松風の
絶へ間を
蝉のしぐれ
かな
五素 三田お 恵 7

松風の
絶へ間を
蝉のしぐれ
かな
江秀 宇田川 萬子 8

松風の
絶へ間を
蝉のしぐれ
かな
陽翠 山田 桂子 9

松風の
絶へ間を
蝉のしぐれ
かな
書倫 中鶴 泰子 10

ふふふの遠谷に鳴き退きより
半時にして朝蟬のこゑ
証 石曾根紫峰

ふふふの遠谷に
鳴き退きより
半時にして朝蟬のこゑ
加茂 石黒 純子

ふふふの遠谷に鳴き退きより
半時にして朝蟬のこゑ
新書 内山 薫

ふふふの遠谷に鳴き退きより
半時にして朝蟬のこゑ
容弘 岩井 文哉

ふふふの遠谷に鳴き退きより
半時にして朝蟬のこゑ
岩書 飛澤 寿男

ふふふの遠谷に鳴き退きより
半時にして朝蟬のこゑ
水荃 河合美由紀

ふふふの遠谷に鳴き退きより
半時にして朝蟬のこゑ
書学 松原 依美

ふふふの遠谷に鳴き退きより
半時にして朝蟬のこゑ
游山 牧岡 牧子

ふふふの遠谷に鳴き退きより
半時にして朝蟬のこゑ
香桜 澤水 清香

ふふふの遠谷に鳴き退きより
半時にして朝蟬のこゑ
書学 榎木 新一

ふふふの遠谷に鳴き退きより
半時にして朝蟬のこゑ
書学 海老名恵実子

ふふふの遠谷に鳴き退きより
半時にして朝蟬のこゑ
玉桂 中村 桂雲

ふふふの遠谷に鳴き退きより
半時にして朝蟬のこゑ
本源 益田優美子

ふふふの遠谷に鳴き退きより
半時にして朝蟬のこゑ
姫春 大和多美月

ふふふの遠谷に鳴き退きより
半時にして朝蟬のこゑ
梧星 吉田 令房

若有人輕毀之言汝狂人耳空作是行終
无所獲如是罪報當世世无眼若有供養
讚嘆之者當於今世得現果報若復見受
持是經者出其過惡若實若不實此人
現世得白癩病若輕毀之者當世世牙齒
疎缺醜屑平鼻手脚癱廢眼目角睐身躄
臭穢惡瘡膿血水腹短氣諸惡重病是故
普賢若見受持是經典者當起速如當如
敬佛說是普賢勸發品時恒河沙等无量
无边菩薩得百千萬億旋陀羅尼三千大
千世界微塵等諸菩薩具普賢道佛說
是經時普賢等諸菩薩舍利弗等諸聲

伊賀 石田 春代

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无
所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心无
罣礙无罣礙故无有恐怖遠離一切顛倒夢
想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜

書学 山根美枝子

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无
所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心无
罣礙无罣礙故无有恐怖遠離一切顛倒夢
想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜

そら 池田 説子

若有人輕毀之言汝狂人耳空作是行終
无所獲如是罪報當世世无眼若有供養
讚嘆之者當於今世得現果報若復見受
持是經者出其過惡若實若不實此人
現世得白癩病若輕毀之者當世世牙齒
疎缺醜屑平鼻手脚癱廢眼目角睐身躄
臭穢惡瘡膿血水腹短氣諸惡重病是故
普賢若見受持是經典者當起速如當如
敬佛說是普賢勸發品時恒河沙等无量
无边菩薩得百千萬億旋陀羅尼三千大
千世界微塵等諸菩薩具普賢道佛說
是經時普賢等諸菩薩舍利弗等諸聲

書学 川手 可江

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无
所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心无
罣礙无罣礙故无有恐怖遠離一切顛倒夢
想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜

書学 棚田 恵子

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无
所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心无
罣礙无罣礙故无有恐怖遠離一切顛倒夢
想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜

梧星 星野 寿仙

書学

金丸 洋輔

刀意の込められた力強い線質。文字と外郭が混然一体となった章法が見事である。余白も美しく清朗な作。



規定

「廉直」

審査評―秋山 凌雲

新書

宮城 康湖

整然とした分間と大胆な余白。疎密が明確で洗練された作。墨だまりの残朱をもう少し整理すれば更に完成度が高まるであろう。



春日

堤 裕美

文字全体の線が太く、漢印の如き安定感と重厚感がある。撃辺を加えたことにより古色が程よく加わり、古雅な雰囲気が出ている。



書学

高見 敏久

一部の線に原印以上の太さが見られるが、呉讓之の特徴を的確に再現した形似は見事である。



随意

「逃禪煮石之間」(模刻)

清水 須藤 杉本 鈴木	田中 田村 多田 高橋	竹内 武田 谷口 塚本	書学 北江 恵子
-------------	-------------	-------------	----------

清水 須藤 杉本 鈴木	田中 田村 多田 高橋	竹内 武田 谷口 塚本	美京 大津 櫻月
-------------	-------------	-------------	----------

清水 須藤 杉本 鈴木	田中 田村 多田 高橋	竹内 武田 谷口 塚本	圭石 藤本 夕陽
-------------	-------------	-------------	----------

清水 須藤 杉本 鈴木	田中 田村 多田 高橋	竹内 武田 谷口 塚本	宗像 丸田 寛子
-------------	-------------	-------------	----------

清水 須藤 杉本 鈴木	田中 田村 多田 高橋	竹内 武田 谷口 塚本	こず 村岡 初江
-------------	-------------	-------------	----------

清水 須藤 杉本 鈴木	田中 田村 多田 高橋	竹内 武田 谷口 塚本	M M 芳賀 鳳泉
-------------	-------------	-------------	-----------

清水 須藤 杉本 鈴木	田中 田村 多田 高橋	竹内 武田 谷口 塚本	修豊 足立 新香
-------------	-------------	-------------	----------

清水 須藤 杉本 鈴木	田中 田村 多田 高橋	竹内 武田 谷口 塚本	そら 池田 説子
-------------	-------------	-------------	----------

規定

(織) 造型の工夫も大切ですが、線に動きと表情を意識したいものです。総じて今回は秀作が乏しかった。



審査評—立川 井梧

玉藻 竹野内華城 力のこもった字形は引き締まり、窮屈さと平凡性はあるが、周辺の余白を生かす。一気呵成に筆を運び書き上げる手腕は見事である。

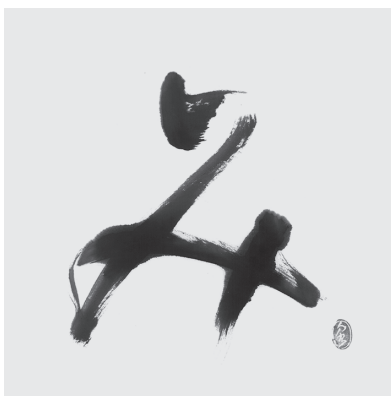
津波 大邊 松風 印象を基に中央に布置させた造型に、超濃墨を使った一画一画渾身の筆遣いで字形骨格は昂然たる姿である。

広島 好田 萩水 結体の構成力は大胆な動勢で筆脈もよく通っている。用筆による筆捌きの動きには、荒削りの渴筆の線を散見できるが楽しく書いている。

九書 長谷川裕美 夾宣紙に青墨で表現した。造型に静動を意図とした筆の動きの構成をみせた。含墨現象として潤渇の表情に偏と旁の対比が極端だった。

随意

(み) 紙面に対する文字の布置と大きさが課題として残りました。



審査評—立川 井梧

愛山 渡邊 輝水 筆圧の変化により線の多様な表現は、線情と流動が絡み合う味わいある作品である。印の位置は適切である。

光風 杉本 華泉 堂々たる筆力の強さを見せた。淡墨で動きのある線は、筆勢と相まって清らかで軽快美を自然体で表現した。

東京 細井 青州 漢字美の行書体である。字形安定感あり安心できる作。上部の点画は柔軟で疎密表出表現は良好。下部の線質は速度緩い分や、堅い。

泉花 丸山 泉花 自然で無理ない運筆の字形に好感を抱く。闊達なる用筆法で線は強く躍動を生み、暢びやかな表情で気力充実した作。